

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370102156		
法人名	株式会社ユニマツリタイアメント・コミュニティ		
事業所名	くまもとケアセンターそよ風 グループホーム		
所在地	熊本市東区山ノ内3丁目9番27号		
自己評価作成日	平成29年9月26日	評価結果市町村受理日	平成29年11月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41—5		
訪問調査日	平成29年10月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居者様の皆様が今日まで歩んで来られた人生や関わった人達との繋がりを大切にしています。ご家族様や医療機関と協力しながら、楽しく過ごして頂ける様職員一同努力しています。地域との連携を図り、地域行事への参加を行い、利用者様、他事業所との繋がりを深めるように努め努力を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

* ホームは2003年に開設され、14年の歴史を持つ。これまでは地域を意識した交流は少なかった。今年度は、新管理者となり地域との交流に意欲を示している。11月11日の「介護の日」は、校区内の介護事業所が参加する行事「RUN伴」に、ホームを代表する利用者と職員が参加し、タスキを掛けてゴールを目指すことにしている。また、地域の同業者の連絡会等へも参加して地域の情報把握に努めることとしており、今後、地域との交流が活発になることが期待される。
* 各居室には作り付けのクローゼットが設置されており、ベッドを置いてもしっかりとしたスペースが確保され、プライベートな空間となっている。室内は、入居者其々の好みで反映された雰囲気となっており、心地よさが感じられた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの理念を職員が把握し、心に留める事が出来る様にする為、目に入り易い位置に提示し共有化している。	開設時に、理念を「そよ風そよぐ、私のふるさと、こころのふるさと、なごみの家」と定め、現在に至っている。しかし、開設から14年を経れており、職員の入れ替わりもあって、理念の浸透・共有が十分ではないように見られた。	理念とは、事業所の目指すサービスの在り方、基本的な考え方を示したものである。理念について職員間で話し合い、共有して職員が行うケアサービスの拠り所となるような取組が必要と思われた。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事などに参加し地域との触れ合う機会を設けられる様工夫している。地域の事業所の会議などにも参加し地域行事の計画などを行っている。	これまで地域との交流の機会は少なかった。今年度は「介護の日」に、校区内の事業所が参加できる「RUN伴」にデイサービスと一緒にホームの利用者と職員も参加することを決定し、タスキ作り等の準備を行っている。現管理者の下、利用者と職員が思いを一緒にして、更に積極的に地域との交流が図られることを期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進鍵等で認知症の方とコミュニケーションや、認知症予防について意見交換を行っている。また、今度も情報の発信や話題の提供等を実施していく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で委員の皆様、ご家族の皆様から貴重なご意見、ご提案を頂き職員間で共有している。また、会議の中で利用者様状況、事故報告等を報告し意見を頂いている。	運営推進会議委員は、民生委員・地域包括支援センター・家族代表と職員等で構成されており、会議は、主にホーム側からの現状報告や、行事に関する報告・予定等が発表されている。	地域との交流を深め、より効果的な運営推進会議にするため、テーマを決めて話し合いをしたり、地域密着型サービスとして連携できる関係機関等から運営推進会議に参加してもらう等、工夫があると良いと思われた。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村への事故や人員配置についての相談や、消防署への勉強会用資料等の相談を行い、適正なサービス提供の為に指導を頂いている。	人員配置等について不明な点があれば、その都度行政に相談し、事故報告も適切に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止マニュアルを基に、実施が必要と思われるケースが発生した時には、出来る限り拘束の必要ない計画を福祉用具業者と相談したりしながら、代替え案を採用する様努めている。	ナースコールが押せない利用者の足元にセンサーマットを使用する際、身体拘束に当たるのか、その他の対策や利用できる福祉用具は無いのか等、検討工夫しながら身体拘束を行わないケアに努めている。法人内に虐待防止委員会を設置しており、内部研修等も実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議の項目に盛り込まれており、職員が再確認する機会となっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の方と関わりをもっておられる司法書士の方とのやり取りの中で、実践的に制度について学んだり、お尋ねする機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約の際は十分な説明を個別に時間を設けて行うのは勿論、ご本人様やご家族様の要望やご意見もたいせつ		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には家族会や面会時に気軽にご要望やご意見を頂ける様な雰囲気作りに努めている。また、ご意見箱の設置、苦情相談ノートの設置をし、情報の共有化に努めている。	苦情シートを玄関に置き、意見箱を設置しているが、意見・要望の提出は少ない。職員は、面会時や家族会が開催される時に話を聞くように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	部署会議、全体会議の中で意見交換の場を設けている。	毎月、法人内の3つの事業所が参加する「全体会議」と、ホーム内の「部署会議」が開催され、情報共有の場とされている。しかし、限られた時間内で、情報提供や担当者会議も行われており、職員の意見や提案を聞くための機会や体制があると良いと思われた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	センター長との面談や職場環境を整える為の設備点検や補修を行っている。また、日々の会話の中から管理者は職員の気持ちくみ取れる様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の研修、社内研修を参加を指名して参加していただいている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域会議の出席積極的に行い、意見交換を行っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス実施前に必ずご本人やご家族との面談(実態調査)を行い、細かい要望や特性の把握に努め、介護計画に活かしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス実施前にご家族様の困っている事や不安に思っている事を傾聴し、施設として協力できる事を誇張せず伝える様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは、認知症型共同生活介護についてご説明させて頂き、ご本人、ご家族の思いも大事にししながら、他のサービス利用が望ましいと思われる場合はご提案させて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	これまでの人生を大事にししながら、入居者様の方にも出来る所は手伝って頂く事で活動的に生き生きと楽しい生活を送って頂ける様努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等、報告や相談を行い情報を共有する事によって互いに誤解する事なくご本人を支えていける様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の馴染みの場所や故郷等を大事にし、友人の面会等もご家族様とお話ししながら積極的に受け入れを行っている。	職員は、利用者が長年住み慣れた土地や地域について、興味を持って話を聴くことで、元気だった頃や馴染みの人との思い出話を語ってもらい、幸せ感を味わえるように支援している。お墓参りがしたいとの望みは、家族に伝え実現し、行きつけの美容室にも家族に同行を依頼し家族と共に支えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話が上手な入居者の方にも協力して頂きながら、職員が仲介等を援助しレクリエーション等を行い皆で楽しく過ごせる様努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設や病院への転居や転院の際は、職員がおりを見てお見舞いや面会に行くことでその関係が途切れない様努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意思を優先した生活を送って頂ける様、いつでも相談に乗れる様な雰囲気作りを努めている。また、日々の会話やご家族様からの情報を頂きながら、困難な場合は職員で検討したりしている。	利用者の思いや意向について関心を払い、把握して、その人らしく暮らせる支援の取組が十分とは見られなかった。言葉や表情などからその人の真意を推し測ったり、確認するなどして、本人本位のサービス提供への取組を期待したい。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居受け入れ前の面談時や入居された後にご本人やご家族にお尋ねしながら状況把握に努めている。また、面談等を介護記録に残し、職員間の情報共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様がこれまでにされてきた生活のリズムを大事にし、時には新しい試みも提案しながら最良の環境を作れる様努めている。また、気が付いた点は記録に残し、情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時は職員間での話し合いを行っている。また、ご本人やご家族とも日頃のやり取りの中で、思いを聞かせて頂きながら、ご本人の気持ちが反映されたプランの作成に努めている。	ケアプランの見直しは、モニタリング・アセスメントを実施し、利用者や家族の思いや望みを大切に部署会議で検討して計画を策定している。計画に沿ったサービスの実施は、個別記録に残されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画以外の内容も記録に残し、細かい発見や工夫をするのに役立っている。また申し送りや会議の中で職員間の情報共有を行い入居者の支援に役立てる様努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の意向を大切に、実施可能な部分に関しては実施している。また、何らかの障害により実施困難の場合はまずどうすれば実施可能かを検討し、出来る様努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベント等へ参加し、繋がりを深める様努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は施設の連携医に限らず、個々の主治医と連携が取れる様努めている。また、症状によってはご本人、家族と相談しながら専門医への受診を行っている。	一部の利用者は入所前からのかかりつけ医を利用し、受診の際には、家族が同行することになっている。事業所の協力医を利用する場合、毎月2回、医師による往診が実施される。また、毎週2回、訪問看護も実施している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	急変時のみでなく、少し気になる時等もいつでも相談出来る様な関係作りに努めている。また、かかりつけ医ごとに連絡先が解りやすい様相談先電話番号等の掲示を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご入院の際は直ぐに入院先の医師や看護師に、日常生活動作や既往歴等の情報提供を行っている。また、入院中にもお見舞いや電話にて状況確認を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化においては、ご家族様や主治医とよく話し合い、助言や指示を頂きながら対応を検討している。	これまでにターミナルケアの実例はないが、「重度化した場合の対応・看取り対応に関する指針」や「延命・急変時等に関する確認書」、ターミナルケアについての冊子等を整備し、重度化した際の対応について備えている。ただ、現在の指針や確認書は、利用者・家族代表の署名印鑑を求めているものの、法人・事業所名や説明者等の記載欄が無く、様式としては不十分と思われ、見直しが必要と思われた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応として、管理者、訪問看護ステーション、ご家族様への連絡をスムーズに行える様職員へ周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	最寄の消防署からの立ち合いでの避難訓練を行ってご指導やアドバイスを頂いている。また、運営推進会議の中で議題として扱い、自然災害時の緊急連絡先の把握にも役立っている。	8月に消防署立ち合いのもと、夜間の火災を想定した避難訓練を実施し、利用者も参加している。訓練後、消防署からのコメントを得たり、設備会社と「パニックドア」の設定についての話し合いが行われている。	ホームは、建物の2階に位置していることから、避難訓練で得られた消防署や設備会社からのアドバイス・職員の気づき等を職員間で十分共有し、災害に備えることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	出来るだけご本人様の傍らで声掛けを行い、排泄等の確認は外に漏れない様配慮している。また、職員間で気になった言葉等は注意し合う様心がけている。	誘導の声掛けはさり気なく行い、排泄に関しては職員間で記号で伝えるなど工夫し、プライバシーの確保に配慮している。「プライバシーの確保」に関する研修を定期的に行うことで、職員の意識も更に高まると思われる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示しやすい様、職員は目配り気配りを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	突発的な希望にも出来るだけ対応出来る様、職員は柔軟な業務分担の振り分けを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段から入居者様の身だしなみには気を配っているが、誕生日等特別な日は特にご家族にも相談しながら、その方らしいおしゃれをできる様援助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	美食祭りや行事食等、季節感を感じて頂ける様配慮している。また、入居者の方にも小さな作業でも可能な限り手伝って頂いている。	ご飯と味噌汁はホームで用意し、副菜は全て外部委託となっているが、献立は色々な食材を取り入れ、変化を持たせた食事となっている。「美食祭り」と称して、1階のデイサービス事業の調理担当者がホームの利用者に手作りの美味しいご馳走を提供する機会もあり、喜ばれている。受診の帰りにマクドナルドに立ち寄ったり、誕生日には利用者の希望に沿って担当職員と外食を楽しむ支援もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態にあった食事量や食事の形態に心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週に1回の訪問歯科による口腔ケア指導の実施、また、毎日の義歯洗浄、うがい等を行って口腔内清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を基に排泄パターンの把握に努め、オムツ使用を出来るだけ抑えていくようにしている。	入院時はオムツを使用していた利用者が、帰ホーム後は、定期的な誘導・希望に沿った誘導を継続し、布パンツまで改善されたケースがある。職員の連携によって快適な排泄支援、オムツ代の軽減等に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝のヨーグルト摂取や下剤調整、水分強化等をそれぞれにあった形で行い、訪問看護ステーションとも相談するようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の声掛けは行うが、希望されない時は無理には実施せず、翌日等入りたい時に入って頂く様にしている。	重要事項説明書には「毎日入浴できる」と記載されているが、実際には各ユニットで、1日平均2人ずつの入浴となっており、4～5日に1回の入浴が現状のように見られた。入浴を希望しない利用者があることも理解できるが、少なくとも2～3日毎に入浴出来るような工夫も必要と思われた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や夜間の睡眠時間をふまえて静養対応を検討したりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方変更等は確実に申し送るようにしている。また、個別のファイルに薬剤情報も整備、保管し確認しやすいようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節感を味わうための行事を毎月計画、実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全体での外出行事、ご家族様にご協力を頂いての外出、外泊を実施している。	春は桜・秋はコスモス等、ドライブでお花見に出かけている。また、屋上で家族と一緒に茶話会をしたり、航空自衛隊ブルーインパルス <small>の飛行を見学するなどして、気分転換を支援している。しかし、外出する機会は少ないように感じられた。</small>	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は基本的に職員が行い、収支表等でご家族様にご報告している。少額ではあるがご家族様了承を得て持っておられる利用者様もおられ外出時には実際にご自分で支払を出来るよう援助している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事前にご家族様にご了解を頂き、外からかかってきた友人の方からの電話に実際に出ている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室前の名札の壁、ユニット間ホールには季節に応じた装飾をしている。	建物の1階にデイサービスがあり、2階に二つのユニットが入り口を挟んで位置している。リビングや廊下は、季節を感じられる飾りつけが施され、評価当日は、ハロウィーンを祝う黄色いカボチャの飾り物で楽しい雰囲気となっていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングルームでの配席には注意し、いつでもくつろいでいただける様、ソファ等を設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご本人様の愛用品等を持ち込んで頂き、その方らしい生活出来るよう努め、ご家族様にもお願いしている。	居室は、作り付けのクローゼットがあり、ベッドを置いてもゆっくりとしたスペースが確保されている。其々の居室は、お花・兎のお雛様・好みのハンドバッグ・家族写真等が飾られたり、テーブルや椅子・テレビ等生活用品もあり、自分の好みの部屋づくりとなっており、心地良さが感じられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行の妨げになり転倒しない様、物を置かないように心がけている。また、少しの言葉があると理解出来るような場面では掲示を行い入居者様が混乱されない様努めている。		